

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.21〉

〈厚東② 課題とキーマン〉

厚東地区の人口は1594人、高齢化率は47・2%（いずれも2023年4月1日現在）で、少子高齢化が大きな課題となっている。その中で近年、働き盛りの30〜40歳代を中心とした「厚東ICT（情報通信技術）グループ」が立ち上がった。デジタルを活用した移住・定住につながる地域の魅力発信や、防災力の強化に取り組んでいる。



デジタルの知識や技術を生かして、地域づくりに貢献する礎さん（左、厚東ふれあいセンターで）

## 移住・定住、防災にICT活用

コロナ禍でイベントなどが制限される中でも、地域づくりを推進しようとしたのが設立のきっかけ。21年には防災情報に特化した厚東地区のライン公式アカウントを開設した。もともとは自主防災会が防災情報を効果的に伝達するため、ラインの活用を検討。グループのメンバー7人のうち半数以上が消防団に所属しており、防災意識が高かったこともあって協力した。大雨などで厚東川の氾

### 魅力発信し、伝統も継承

濫が懸念されることから、河川監視カメラや雨雲レーダーの情報を確認しやすいよう工夫。地区の行事カレンダーや、移住・定住の促進に向けて子育てのしやすさをPRする動画も掲載した。若い感性を取り入れようと、22年に厚東川中の生徒2人が製作した地元のカフェなどを紹介する動画もアップ。今後は厚東郷土史研究会の「厚東」を参考にしながら、地区の歴史をまとめた子ども向け動画を製作する予定という。グループのまとめ役である礎祐一さん（48）は、県内専門学校の元情報系教員。7年前に妻の実家がある末信に移住した。地区で踊られてきた盆踊りの継承を目的に、地区コミュニティ推進協議会が進めるDVDの製作にも撮影などで協力。地域を知ることが郷土愛への第一歩。Uターンなどにもつながれば」と語った。